

新内科学大系

消化管疾患 III

1534.527 蔵



新内科学大系

16

消化管疾患 III



吉 利 東大名譽教授
自治医大学長
中 尾 喜 浜松医大学長
山 形 敵 東北大名譽教授
前慶大教授
三 辺 謙 九大教授
黑 岩 義 五 郎 東大教授
織 田 敏 次 阪大教授
山 村 雄 一 雄 一

<監修>



中山書店

全60巻

第16巻

1977年1月28日 第1刷発行

検印省略

新内科学大系 (全60巻)

Handbook of Internal Medicine

(Shin-Naikagaku Taikci)

第16巻 《消化管疾患III》◎

監修

吉 利 和
中 尾 喜 久
山 形 敏 一
三 辺 謙
黒 岩 義 五 郎
織 田 敏 次
山 村 雄 一

発行

中 山 三 郎 平

発行所

株式会社 中 山 書 店

〔製作〕 株式会社 中山・新内科学大系刊行部

東京都文京区本郷3の14の10(泰生ビル)

TEL. 813-1101(代表) 郵便番号 114

〔販売〕 東京都文京区本郷3の6の12(太平ビル)

TEL. 815-3511(代表) 郵便番号 113

〔取引〕 東京都千代田区神保町2の24

TEL. 263-5511 振替東京196565 郵便番号 101

印刷/凸版印刷株式会社 製本/松岳社青木製本所

用紙/三菱製紙株式会社 表紙/ダイニック株式会社

3347-214701-5612

篠内林太郎

東女医大教授 鎮目和
山形大教授 石川
東大講師 鈴木秀
東大助教授 和田
慶大助教授 土屋雅
愛媛大教授 国府達

山田誠夫 田村誠一郎 山田誠一郎

〈編集〉

〈解説〉

中山書局



尾前照雄	九大教授	阿部裕	阪大教授	高安正夫	国立京都病院長	脇坂行一	滋賀医科大学長	山田弘三	名大名譽教授 中部労災病院長	真下啓明	東大教授	堀内淑彦	東大教授	豐倉康夫	東大教授	小坂樹徳	東大教授	村尾覚	東大教授	滝島任隆	東北大教授	中村雄誠	山形大教授	白石忠誠	北大教授	村尾誠	北大教授
------	------	-----	------	------	---------	------	---------	------	-------------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	-------	------	-------	------	------	-----	------

〈監修協力〉



德臣晴比古	熊大教授	高岡善人	長大教授	小坂淳夫	岡大学長	木下康民	新大教授	武内重五郎	東医歯大教授	増田正典	京府医大教授	日比野進	国立名古屋病院長	名大名誉教授	上田泰	慈大教授	和田武雄	札医大教授
-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	--------	------	----------	--------	-----	------	------	-------

〈顧問〉

田忠實書

學士院會員
東北大名譽教授
黒川利雄
東大名譽教授
冲中重雄
學士院會員
東大名譽教授
田坂定孝
關東防炎病院名誉院長
名大名譽教授
名城病院院長
青山進午
京大名譽教授
国立京都病院名誉院長
三宅儀
阪大名譽教授
国立大阪病院院長
吉田常雄
九大名譽教授
宮崎医大学長
勝木司馬之助

〈名誉顧問〉

第16卷

消化管疾患Ⅲ

著 者

北里大教授	岡 部 治 弥	東大内科	丹 羽 寛 文
国立がんセン ター病院長	市 川 平 三 郎	岐阜大教授	土 井 偉 誉
鳥大助教授	田 中 弘 道	東北大名誉教授	山 形 敞 一
東北大助教授	石 森 章	京府医大教授	増 田 正 典
岐阜歯大教授	井 田 和 徳	京府医大教授	川 井 啓 市
京府医大講師	三 崎 文 夫	島根医大副学長	石 原 国
日大教授	本 田 利 男	山形大教授	石 川 誠

(執筆順)

目 次

I. 胃 炎	
A. 急性胃炎	岡部治弥 ... 3
1. 分 類	3
2. 外因性急性胃炎	3
a. 急性単純性胃炎	3
b. 急性腐食性胃炎	7
c. 放射線性胃炎	9
3. 内因性急性胃炎	9
a. 急性感染性胃炎	9
b. 急性化膿性胃炎	10
c. アレルギー性胃炎	10
B. 慢性胃炎	岡部治弥 ... 13
1. 歴 史	13
2. 分 類	15
a. 特発性慢性胃炎	16
b. 随伴性慢性胃炎	16
3. 病 因	17
a. 急性胃炎	17
b. 外因性諸因子	18
c. 内因性諸因子	20
4. 病態生理	22
a. 塩酸分泌	22
b. ペプシン分泌	22
c. 内因子分泌	23
d. 胃液内アルブミン	23
5. 病理組織像	23
a. 表層性胃炎	23
b. 萎縮性胃炎	24
c. 胃 萎 縮	24

2 目 次

6. 慢性胃炎の発生率	24
7. 臨床症状	25
a. 自覚症状	25
b. 他覚症状	26
8. 診断および鑑別診断	27
a. X線検査	27
b. 内視鏡検査とその所見	27
c. 生検組織診断法	28
9. 合併症	28
a. 慢性胃炎と胃潰瘍	28
b. 慢性胃炎と胃癌	29
c. 慢性胃炎と貧血	30
10. 経過と予後	31
11. 治療, 予防	31
a. 障害因子の除去	32
b. 食餌療法	32
c. 薬物療法	32
d. 精神療法	32
e. 安 静	32
C. 特殊な慢性胃炎	丹羽寛文 37
1. 巨大肥厚性胃炎	37
a. 定 義	37
b. 歴 史	37
c. 病 因	38
d. 病 理	39
e. 頻 度	42
f. 臨床症状	43
g. 診断および鑑別診断	44
h. 合併症	48
i. 経過, 予後	49
j. 治 療	49
2. びらん性胃炎	50
a. 定 義	50
b. 歴 史	51

c. 分 類	52
d. 病 因 論	52
e. 病理所見	53
f. 組 織 像	54
g. 疫学的事項	55
h. 臨床症状	56
i. 診断および鑑別診断	57
j. 合 併 症	61
k. 経 過	62
l. 治 療	62
3. 反応性リンパ細胞増生	63
a. 定 義	63
b. 歴 史	63
c. 分 類	63
d. 病 因 論	64
e. 病理組織	64
f. 統計的事項	64
g. 臨床症状	64
h. 診断および鑑別診断	65
i. 合 併 症	66
j. 経過, 予後	67
k. 治 療	67
D. 診 断 法	73
1. X 線診断	市川平三郎, 土井偉誉 73
a. X 線による胃炎の診断	73
b. 急性胃炎のX線診断	74
c. 慢性胃炎のX線診断	80
d. 胃炎のX線診断のまとめ	102
2. 内 視 鏡	田中弘道 105
a. “慢性胃炎”内視鏡診断の基礎	105
b. 慢性胃炎診断のための内視鏡検査	106
c. 慢性胃炎の内視鏡所見と内視鏡分類	108
3. 慢性胃炎の生検診断	田中弘道 118
a. 慢性胃炎の診断における胃生検の意義	118

4 目 次

b. 直視下胃生検の実技	119
c. 慢性胃炎の生検組織診断	123
E. 治 療	田中弘道 126
1. 原因的因子に対する対策	127
a. 刺激性食品	127
b. 機械的刺激, 温熱刺激	127
c. 細菌感染, 病巣感染に対する対策	127
d. アレルギー源に対する対策	128
2. 安静療法	128
3. 食餌療法	128
4. 薬物療法	128
a. 慢性胃炎に対する積極的療法	129
b. 補充療法—賦活療法	129
c. 対症療法	130
5. 外科的療法	131
II. 胃・十二指腸潰瘍	
A. 胃・十二指腸潰瘍の最近の考えかた	山形敬一, 石森 章 135
1. 疫学的考察	135
2. 発生病理学的考察	136
3. 病態生理学的考察	138
a. 消化管ホルモンとの関連	138
b. 胃液分泌機序との関連	139
4. 経過, 予後との関連	144
✓ B. 病因と病理	山形敬一, 石森 章 147
1. 病 因	147
a. 臨床的観察	147
b. 動物における潰瘍の自然発生と実験潰瘍	148
c. 病 因 論	149
d. 総 括	152
2. 病 理	154
✓ C. 主要症状	増田正典, 井田和徳 156
1. 自覚症状	156
a. 疼 痛	156

b. 胸やけ, 吞酸	159
c. 圧重, 膨満感	159
d. 悪心, 嘔吐	159
e. 吐血, 下血	159
f. 食欲不振	160
g. その他の症状	160
2. 他覚症状	160
a. 腹部触診	160
b. 圧 診 点	161
c. 糞便潜血反応	161
d. 胃液検査	161
D. 診 断	増田正典, 井田和徳 164
1. X線診断	164
a. 胃潰瘍	164
b. 十二指腸潰瘍	188
2. 内視鏡診断	196
a. 胃潰瘍	196
b. 十二指腸潰瘍	205
3. X線および内視鏡検査を応用した新しい診断の試み	208
a. 推計学を用いた治癒傾向の診断	208
b. 内視鏡検査における色素散布の応用	214
4. 治癒判定	216
a. 胃潰瘍	216
b. 十二指腸潰瘍	219
5. 胃癌との鑑別診断	220
E. 治 療	川井啓市, 三崎文夫 228
1. 総 論	228
a. 内科治療上の基礎的問題	228
b. 潰瘍の経過——再発と難治化	229
c. 潰瘍治癒に対する効果判定法	232
2. 各論的事項	234
a. 安 静	234
b. 食餌療法	235
✓ c. 薬物療法	237

6 目 次

d. その他の潰瘍治療法	255
e. 再発・再燃・難治と治療	256
F. 胃潰瘍の悪性化	石原 国 262
1. 潰瘍癌の判定基準の移りかわり	262
2. 悪性サイクルと聖域	263
3. 潰瘍癌の頻度	265
G. 合併症	川井啓市 268
1. 出血	268
a. 診断	269
b. 治療	277
2. 癌びらん面にみられた良性潰瘍（癌性変化）	280
a. 診断	282
b. 治療	284
3. 変形，ことに幽門狭窄	285
a. 診断	285
b. 治療	287
4. 穿孔	287
a. 診断	288
b. 治療	291
5. 穿通	291
a. 診断	291
b. 治療	293
H. 予後を左右する2,3の因子	本田利男 297
1. 胃潰瘍の治療成績の実態	297
a. 再発と再燃および潰瘍歴	298
b. 内視鏡所見と治療経過	299
c. 入院・外来別の治療成績	300
d. 治癒経過の文献的考察	301
2. 難治性と潰瘍症状	302
a. 潰瘍の深さと臨床所見	302
b. 潰瘍の大きさ，深さとの関係	303
c. 発生部位と難治性との関係	304
d. 潰瘍と共存性胃炎	304
e. 胃液分泌との関係	306

f. 潰瘍患者と動脈硬化	307
g. 潰瘍患者と嗜好	309
3. 難治性とその対策	310
a. 短期嚴重安静療法	310
b. 潰瘍患者の心因的処置	312
c. 食餌の調整と薬物療法	313
I. 胃切除の適応と術式の選択	本田利男 316
1. 絶対的適応	316
a. 穿 孔	316
b. 出 血	318
c. 幽門狭窄	321
2. 比較的適応	322
a. 難治性潰瘍	322
b. その他の潰瘍と社会的適応	324
3. 術式の選択	324
a. 穿孔に対する処置	325
b. 出血に対する処置	325

III. 胃切除後の諸問題とその対策

石川 誠

はじめに	331
1. 胃切除後遺症の分類	335
2. 胃切除後の機械的・解剖学的異常	336
a. 食 道	336
b. 胃	337
c. 吻合部の異常	337
d. 輸入脚症候群	349
e. 輸出脚症候群	351
f. バイパス	351
3. 胃切除後の内視鏡診断による諸問題	352
4. 胃切除後の栄養学的代謝性異常	352
a. 体重減少	353
b. 貧 血	353
c. 下 痢	355
d. 低カルシウム血症	358

8 目 次

c. 胃切除後の栄養学的, 代謝性異常の診断のまとめ	358
おわりに	358
索 引	365
plate I	(50')
特殊な慢性胃炎の内視鏡像 (図 1 ~ 8)	
plate II	(114')
慢性胃炎の内視鏡所見と生検組織像 I (図 1 ~ 20)	
plate III	(118')
慢性胃炎の内視鏡所見と生検組織像 II (図 1 ~ 8)	
plate IV	(196')
胃・十二指腸潰瘍の内視鏡像 (図 1 ~ 28)	
plate V	(262')
悪性サイクル 2 症例の各種所見 (図 1 ~ 14)	
plate VI	(282')
潰瘍癌と思われる 1 症例の各種所見 (図 1 ~ 4)	

